

第5学年 音楽科学習指導案

○組 計40人
指導者 ○○ ○○

- 1 題材 様子や気持ちを音楽で表そう
教材 ◎「ピーターとおおかみ」 プロコフィエフ 作曲
様子や気持ちを音楽で表そう（本時主教材）

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子供たちは、第4学年題材「いい音えらんで」で、自分のもつイメージを基に、そのイメージと音色の組合せとを結び付けながらリズムをつくって表現したり、楽器の素材やばちによる音色の違いを感じ取りながら表現したりすることの楽しさを味わってきている。さらに子供たちは、様々な場面の様子や気持ちをイメージし、そのイメージと音楽の諸要素（音色、リズム、強弱・速度の変化）とを結び付けて音楽をつくって表現できるようになりたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは日頃の生活場面における身近な様子や、そのときの自分の気持ちをイメージし、その様子や気持ちを音楽でつくって表現する活動を通して、様々な音の素材による響きや組合せを生かして表現する能力を育てるとともに、様子や気持ちを音楽で表すことに関心を持ち、進んで音楽をつくって表現しようとする意欲や、イメージした様子や気持ちと音楽の諸要素とを結び付けて表現を工夫する能力を高めることをねらいとして、本題材「様子や気持ちを音楽で表そう」を設定した。

ここでの学習は、場面の情景をイメージし、その情景と音楽の諸要素とを結び付けて表現を工夫する活動を通して、実際には聴こえない、見えないものを対象として音楽をつくって表現する能力を育てる第6学年題材「情景を音楽で表そう」の学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

様々な音の素材による響きや組合せを生かして表現する能力を高めるためには、様々な楽器の音の素材にふれさせたり、試行錯誤しながら様々な音を組み合わせたりする活動を通して、自分のもつイメージと音楽の諸要素とを確実に結び付けることの喜びや楽しさを味わえるようにすることが効果的である。特にこの期の子供たちには、音の組合せによってできる様々な音の重なりや、様子や気持ちの変化によってできる場面を音楽の構成の工夫と結び付けて、つくって表現していくことが大切である。

具体的には、まず「ピーターとおおかみ」を取り上げる。この曲には、場面の様子や登場人物の気持ちを表した朗読と音楽表現の工夫が数多く登場して出てきており、場面の様子や登場人物の気持ちと、音楽の諸要素とを結び付けやすい鑑賞教材である。そこで、場面の様子や登場人物の気持ちと音楽の諸要素とを結び付けることの楽しさを味わえるようにする。

次に「様子や気持ちを音楽で表そう」を取り上げる。この教材では、日頃の生活場面における身近な様子や、そのときの自分や友達の気持ちを具体的にイメージし、その様子や気持ちを鍵盤楽器や打楽器などの多様な音色による楽器を使って、音楽でつくって表現することができる教材である。そこで、ここでは単なる様子や気持ちを表現するのではなく、その様子や気持ちが途中で変化するようなイメージを設定させることで、音楽の構成を工夫することによって生まれる音楽表現へのあこがれや、音楽の諸要素を変化させることで生まれる音楽表現へのこだわりをもつことの楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子供たちはイメージした様子や気持ちと音楽の諸要素とを結び付けることのよさを味わい、様々な音の素材による響きや組合せを生かしながら様子や気持ちを音楽で表すことへの関心・意欲を高め、音の重なりや音楽の構成を工夫して音楽をつくって表現しようとする態度を養うことができる。

(3) 子供の実態 (調査対象 5年〇組 40人)

本学級の子供たちの実態は次のとおりであった。

① あなたは、様子や気持ちを音楽で表すことは楽しいと思いますか。
はい (39人) いいえ (1人)
② その理由を教えてください。
【「はい」と答えた理由】 ・楽しそう、おもしろいから (12人) ・いろいろな楽器が使えるから (5人) ・自分の気持ちが伝えられるから (9人) ・いろいろな作品を聴くのが楽しそうだから (2人) ・いろいろな表現ができるから (6人) ・その他 無答なし
【「いいえ」と答えた理由】 ・めんどくさそうだから
③ 様子や気持ちを音楽で表すときに、どんなことに気を付けて音楽をつくりませんか。
・様子や気持ちに合うようにつくる (13人) ・様子や気持ちに合うように速度を工夫する (2人) ・様子や気持ちを想像する (6人) ・様子や気持ちに合うように音の高さを工夫する (2人) ・様子や気持ちに合うような楽器を選ぶ (5人) ・その他 無答なし ・様子や気持ちに合うように強弱を工夫する (5人)
④ 「きれいな桜の花の様子」を音楽でつくる時にどんな楽器を選び、どのようにつくりませんか。
【どんな楽器】 てっきん (16人), キーボード (9人), すず (7人) その他 無答なし 【どのように】 なめらかに (11人), 弱く (10人), ゆっくり (8人) その他 無答なし
⑤ 「あせている気持ち」を音楽でつくる時にどんな楽器を選び、どのようにつくりませんか。
【どんな楽器】 小だいこ (16人), 大だいこ (7人), 木きん (4人) その他 無答なし 【どのように】 速く (28人), 強く (5人), 弱く→強く, スタッカートで (各2人) その他 無答なし

①から、子供たちは音楽づくりへの興味・関心は高いが、「めんどくさそう」と答えた子供もいることが分かる。そこで、楽器に多くふれさせたり、描写音楽などを聴かせたりして、音楽づくりを身近なものとしてとらえさせる必要がある。

②から、イメージと楽器の音色や強弱といった音楽の諸要素とを結び付けることに着目している子供が半数近くいる反面、様子や気持ちをどのように表すかという考えをもっていない子供も多いことが分かる。そこで、自分が音楽でつくる様子や気持ちは、音楽のどの要素をどのように工夫すれば表現できるのかを吟味させながら活動に取り組みさせる必要がある。

③④から、子供の選んだ音色は打楽器が多いことが分かる。これまでの学習や生活経験などからこれらの楽器を想像した様子が見えてくる。そこで、旋律楽器や他の打楽器などの多様な音色でも表現できるように気付かせる必要がある。また、どのようにつくるかについては、強弱や速度の工夫を試みると答えた子供が多い。そこで、音の重なりや構成といった他の音楽の諸要素も工夫して音楽づくりに取り組みせ、音楽表現の幅を広げていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 子供たちが自由な発想を生かし、意欲的に音楽づくりに取り組めるようにするために、音色を選ぶ段階ではできるだけ多くの楽器にふれさせるとともに、題材の導入時に「ピーターとおおかみ」の音楽を鑑賞させ、気付いたことを音楽づくりに生かしていくことができるようにする。

イ 子供たちが音楽づくりに見通しをもって取り組めるようにするために、自分の身近な生活場面における様子や気持ちを具体的にイメージし、そのイメージと音楽の諸要素とを確実に結び付けて音楽づくりができるような学習カードを作成し、子供たちに音楽づくりの方向性をもたせるようにする。

ウ 子供たちが打楽器の音色だけでなく旋律楽器の音色があることや、音の重なりや構成にも着目することができるように、教師がつくった作品例を聴かせることにより、多様な音楽表現を工夫できるようにする。

3 目 標

- (1) 音の重なりや全体の構成を工夫して、音楽をつくって表現することができる。【知識及び技能】
- (2) 場面ごとの様子やそのときの気持ちを想像し、そのイメージと音楽の要素とを結び付けながら、表現の仕方や構成を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 様子や気持ちを音楽で表すことに関心をもち、自分のもつイメージとつくった音楽とが合っているかを振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（全6時間）

過 程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教師の働きかけ	
課題把握 課題追求Ⅰ	1	「ピーターとおおかみ」 「様子や気持ちを音楽で表そう」	様子や気持ちがどのように音楽に表れているか気を付けてきこう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様子や気持ちを表す音楽のつくり方で大切な点に気付かせ、意欲的に取り組むことができるようにするために、物語の様子や登場人物の気持ちを表す参考作品を聴かせるようにする。 ○ 聴いた音楽がなぜそのような様子や気持ちに思えたのか、その理由を答えさせ、イメージをはっきりもたせることにより、音楽づくりに取り組むことの楽しさを実感させるようにする。 ○ イメージと音楽の要素とを確実に結び付けるために、まず表す場面の様子や気持ちを明確にした後、楽器のどんな音色を使って、どのように表すかを構想してから音楽をつくるようにする。 ○ どの程度の作品にするか見通しをもたせて活動に取り組みせるために、音楽の長さや音の重なり、音楽の構成を考えて音楽づくりをするように助言する。 ○ 子供たちの自由な発想を広げながら試行錯誤できるようにするために、イメージと音楽の要素とをどのように結び付けて音楽づくりをしたかを発表させるようにする。 ○ 自分たちのつくった音楽がより伝わるように、音色や速度、強弱、音の重なりや音楽の構成などの観点から見直し、さらにまとまりのある表現に練り上げていくようにする。 ○ 自分の高まりを振り返ることができるようにするために、学習のまとめの段階では、なぜ自分がこの学習に対して一生懸命取り組めたのか、音楽づくりや中間発表などの活動でよく考えたことや、技能が高まったことなどを振り返らせるようにする。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽曲を聴き、様子や気持ちを表す物語の音楽の表現の仕方やつくり方について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使っている楽器の音色 ・ 速度やリズム、構成などの工夫 ○ 楽曲全体を味わって聴く。 		
課題追求Ⅱ	2		様子や気持ちを表す音楽をつくろう。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 範奏を聴き、どんな様子や気持ちかを想像する。 ○ グループに分かれ、どんな様子や気持ちにするかを話し合う。 ○ 話し合ったことを基に、どんな楽器を使うかを話し合う。 ○ 音を出しながら練習する。
	3		様子や気持ちに合った音楽になっているか気を付けながら、音楽をつくろう。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の表したいイメージと、音楽の要素をどのように結び付ければよいか考えながら、音楽づくりをする。
	4 (本時)		自分たちのイメージに合っているか気を付けながら、つくった音楽の中間発表会をしよう。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間発表・鑑賞する。 ○ 発表での反省を基に、さらに工夫するところを話し合う。
	5		つくった音楽を練り上げよう。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間発表での反省を基に、さらに練り上げる。
	6	つくった音楽の最終発表会をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに発表する。 ○ 学習のまとめをする。 		
まとめ			<ul style="list-style-type: none"> ・ どうすればにぎやかな様子が出るか、楽器の組合せを考えながらつくっていくのが楽しかった。 ・ がっかりした気持ちが出るように、キーボードのメロディーの速さを遅くして演奏できた。 		

5 本 時 (4 / 6)

(1) 目 標

ア 自分たちのもったイメージを基につくった音楽を、友達と楽器を組み合わせで演奏することができる。【知識及び技能】

イ 様子や気持ちを音楽で表すことに興味をもち、自分たちのもったイメージを基に音楽づくりをする活動に進んで取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開に当たって

本時はグループごとにつくった音楽の中間発表の場となる。子供たちが次時の練り上げの活動に向けて意欲がもてるようにするために、他のグループの発表を聴いて、表現のよかったところや自分たちの演奏に取り入れたいことを話し合う場の設定を行うようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてについて話し合う。</p> <p>自分たちのイメージに合っているか気を付けながら、つくった音楽の中間発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様子や気持ちに合わせた音楽づくりをしてきたな。 そろそろみんなの前で発表してみたいな。 	(分) ↑ 10	<p>○ 中間発表会への意欲付けができるように、本時までに中間発表会を見通した音楽づくりができるように助言しておく。</p> <p>○ 本時のめあてを導き出すために、「これまでどんなことに気を付けて音楽づくりをしてきたかな」と問いかけるようにする。</p> <p>○ 練習の際には、イメージと音楽の諸要素との結び付きを明確にするために、グループ内で「○○な様子を表すために、△△(音楽の要素)を～～して表す」という考えをお互いに確認させるようにする。</p>
課題追求	<p>2 発表に向けて練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちのイメージした様子や気持ちと音楽が合っているかな。 <p>3 中間発表会をする。</p> <p>(1) グループごとに発表する。</p> <p>(2) よかったところや自分たちの班の演奏に生かしたいこと、もっとがんばってほしいことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○班は、がっかりした気持ちと、打楽器のゆっくりで小さい音がよく合っていました。 △班の、だんだん速くしていく方法を自分たちの演奏にも入れたいな。 	↑ 30	<p>○ 発表の際には、聴いている友達にイメージと音楽の諸要素との結び付きを分かりやすくするために、自分たちの設定した様子や気持ちのイメージを述べてから発表する。</p> <p>○ 鑑賞の際には、発表しているグループが次時の活動で作品をより練り上げられるように、イメージと音楽が合っていないと思ったところを述べさせるようにする。</p> <p>○ 次時の練り上げの活動へのねらいをもてるように、グループの話合いの中で修正する部分を明確にさせておくようにする。</p>
相互発表・鑑賞	<p>4 次時の練り上げの活動に向け、グループで修正するところを話し合う。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> あせる気持ちが伝わらなかったの、もっと速く演奏できるようにになりたい。 気持ちの変化がわかりにくかったので、途中で音楽の感じをもっと変えてみたい。 	↓ 5	<p>○ 子供たちが次時の練り上げの活動に意欲をもつことができるようにするために、他の班の演奏を聴いてあこがれたことや、自分のつくる音楽にもっとこだわりたいことを中心に発表させるようにする。</p>
まとめ			